

## 内視鏡検査について Q&A

**Q** 内視鏡検査とは？

**A** 主に、胃や腸など消化器官に関する病気の早期発見・治療のためにおこないます。内視鏡検査では、先端にカメラのついた細い柔軟な内視鏡を口または鼻、肛門から挿入し、消化器官内部の検査をすることができます。通常、胃カメラといわれる上部消化管内視鏡と、大腸カメラといわれる下部消化管内視鏡があります。当院では、患者さんがこれまでの内視鏡検査で経験された「苦しい」「つらい」という思いを少しでも軽減できるように最新の内視鏡システムを導入しています。ご希望に応じて、鎮静剤も使用することも可能です。検査の前に十分な説明を行い、リラックスして検査を受けて頂けるよう心がけております。

**Q** 胃カメラ(胃内視鏡)(上部消化管内視鏡検査)はどのくらい時間がかかりますか？

**A** 通常、前処置に20～30分程度、検査自体は10分程度の時間を要します。

**Q** 胃カメラ(胃内視鏡)(上部消化管内視鏡検査)とはどのような検査ですか？

**A** 電子スコープを用いて検査します。スコープの先端にはカメラが装着されており、モニターテレビに食道・胃・十二指腸の内部を写し出して直接観察し診断する検査です。異常所見を疑った場合などには、精密検査を追加する場合もあります。当院では、検査前に患者様と相談し、経口内視鏡（口から挿入する内視鏡）と経鼻内視鏡(鼻から挿入する内視鏡)を選択頂いております。胃カメラで苦しい思いをされた方には、経口に比べて苦しくない・痛みの少ない「経鼻内視鏡検査」をお勧めしております。

**Q** 胃カメラの流れについて教えてください。

**A**

### ■検査前

#### 食事について

検査の前夜の夕食は夕方9時頃までに、いつもより少なめにとって下さい。

当日の朝は、何も食べないようにしてください。お茶やお水、スポーツドリンクは飲んでいただいて大丈夫です

### ■検査当日

- 検査が終わるまで食事はとれません
- 検査予定時間の1時間前までは水分（スポーツドリンク、お茶、水な

- ど)が飲めます。ジュース、牛乳は飲まないでください
- 常用薬は基本的には服用していただいて問題ありませんが、種類によっては休薬が必要なものもあります。事前に常用薬について、必ずご相談ください。抗凝固薬（血液をサラサラにする薬）を内服している場合、数日前に内服を中止する必要があります。
  - 体を締め付けるものは、できるだけ外してリラックスしてください。上着は脱ぎ、メガネや入歯を外し、ベルトはゆるめます。女性の方は口紅をふき取ってお待ちください。
  - 咽喉の奥に麻酔をします。少し苦みを感じますが、内視鏡を飲み込む際の負担を軽減するため、飲んでいただきます。
  - 内視鏡は無理に飲み込もうとせず、医師やスタッフの指示に従って軽い気持ちで飲み込みます。咽喉を通ったら、ゆっくり静かに呼吸をすると、検査は楽に受けられます。全身の力を抜いてゆったりとした気持ちで受けましょう。検査は通常10分程度で終わります。必要に応じ、胃の粘膜の一部を採取し、組織検査をする場合もあります。この時は多少時間がかかります。

#### ■結果

結果は、基本的にその場でわかります。ただ、組織検査を行った場合などは、結果がでるまで2週間程度かかる場合があります。

#### ■お申込み・お問い合わせ

予約、不明な点な当院へ問い合わせください。

☎027-381-2201

Q

検査の後、車の運転は出来ますか？

A

検査後、運転はしていただいて大丈夫です。

鎮静剤を使用した場合は、検査当日に自分で運転をするような乗り物（自動車、バイク、自転車等）に乗ることは出来ませんのでご注意ください。

Q

胃カメラの後はどれくらいで食事ができますか？

A

検査終了後30分～2時間ぐらゐると、喉の麻酔の効果が消退してきます。水を飲んでむせたりしなければ、食事を召し上がってください。組織を取った場合は、刺激の少ない消化の良いものを召し上がるようにして下さい。

Q

胃カメラは痛くありませんか？

A

当院では患者さんの検査に対する不安や不満を少しでも減らすために、ご希望の方には鎮静剤を使用し、内視鏡検査を実施しております。**検査につらいイメージをお持ちの方や一度検査を受けてつらかった方は内視鏡検査を気楽に受けることは難しいと思います。当院ではそのような患者さんに心と身体に負担の少ない検査”を心がけています。** ご相談ください。  
患者さんの検査に対する不安や不満を軽減することは、必要な検査をためらう患者さんの受診率向上にもつながります。患者さんが必要な時に、必要な検査

を受けていただくことで疾患の早期発見・早期治療につなげております。

- 鎮痛剤・鎮静剤を使用して患者さんの負担を軽減  
特に以前に受けた内視鏡で苦しかった方、緊張・不安の強くある方などには、患者さんからご希望があれば少量の鎮痛剤や鎮静剤を使用させていただいております。お気軽に医師または看護師にご相談下さい。  
(※高齢の方、薬アレルギーのある方などには、鎮痛剤・鎮静剤を使用できない場合があります。)

**Q** 胃カメラを楽に受けるコツはありますか？

**A** リラックスすることです。

- 1.そのためには、呼吸をゆっくり行ないます。鼻から息を吸い（鼻が詰まっているときは口でも可）口から吐きます。息を吐くときに指先までを抜くような気持ちで繰り返してください。
- 2.内視鏡の喉の違和感（あたっているような感じ）は、麻酔をしても完全にとれません。喉に溜まった唾液を飲みこむと、麻酔の効果でむせやすくなっています。唾液は口の外に流し出すようにすると、喉の違和感も軽減します。
- 3.検査のモニター画面がご覧になれますので、目を空けてモニターをご覧下さい。医師が適宜説明をしてくれます。喉の違和感に気持ちが集中せず、少し楽に受けることができます。

**Q** 鎮静剤を使用して検査を楽に受けたいのですが。

**A** 前回の検査が喉の反射が強くとても苦しかった方などは医師に勧められたり、ご希望される方がいます。鎮静剤は血圧低下、呼吸抑制、ふらつき、眠気、注意力・集中力低下、運動反射能力低下が起こることがあります。この注射を使用した場合30分～1時間程お休みいただき血圧、ふらつき、覚醒状態（会話がきちんとできるかなど）体調を確認してからお帰りいただきます。当日は、車の運転や飲酒は危険ですので絶対なさらないようにしてください。ご希望される方は、安全確保のため付き添いの方といっしょの来院をお勧めします。

**Q** 経鼻内視鏡(鼻から挿入する内視鏡)があると聞きましたが？

**A** 以前、胃カメラで苦しい思いをされた方にお勧めします。  
ご希望される方はお気軽にお申し付け下さい。

**Q** 大腸がんが増えていると聞きましたが本当ですか。

**A** 食生活の欧米化などが要因となり、大腸がんは増加しています。

**Q** 大腸がんの症状とはどのようなものですか。

**A** 腹痛や腹部膨満感、下血（出血）、下痢や便秘といった便通異常があげられます。これらの症状が出現するのは、大腸がんの場合、進行してからのことが多く、早期がんは症状がないと考えたほうがよいでしょう。何か症状があるようでしたら早めの受診をお勧めします。

**Q** 大腸がんにならないために、または早く見つけるためにはどうしたらいいですか。

**A** 高脂肪食をさけることや野菜の摂取が予防につながるとのデータがありますが、確実な方法とは言えません。たとえガンが発見されても進行したものでなければ、大腸がんの場合は予後がよく、治癒が期待できるため、自覚症状のない時期に、検診（検便）や大腸検査を積極的にうけることが重要と考えます。

**Q** 検診で便潜血陽性といわれました。もう一度検便を行い、陰性になれば二次検査を受けなくていいですか？

**A** 検便は、大腸ガン検診の一次検査として非常に有用性の高い検査ですが、1回の検査での陽性率は、早期癌が約20%、進行癌が約70%です。採便状況や病変の種類により、病変があるのに便潜血が陰性となるケースが存在します。従って、2回目の便潜血が陰性になっても病変がないという保証はなく、1回でも陽性なら、（特に今まで検査を受けたことのない人は）大腸カメラか注腸検査を受けることが必要です。

**Q** 大腸がんの発見に検診は有効ですか？

**A** 大腸がん検診は、大腸がんの死亡率を下げているという確実なデータがあります。

**Q** 大腸カメラは非常につらいと聞きますが、本当でしょうか。

**A** 確かに大腸カメラをうけた患者さんで、一部（高齢、高度便秘、やせ、腹部手術の既往など）に苦痛を感じられるケースが存在するのは事実ですが、

かなり個人差があります。 当院では苦痛を軽減するため、検査時に鎮痛剤を使用するなどの方法もありますので、ご希望の方はご相談ください。